

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	戦略経営研究科	身分	教授
氏名	露木 恵美子		
NAME	Emiko Tsuyuki		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

組織および地域コミュニティの基盤としての「場」の生成・構築・再構築に関する研究

2. 研究期間

2021・2022年度

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究は、桜えび漁を対象にしたフィールド調査（参与観察・アクションリサーチ）を継続することで、先の研究から導出された、ネットワークを支える基盤としての「場」の変化が、外部から観察することのできる新たなネットワーク構築に先行して起こるのではないかという仮説を検証することを目的にした。

2021年度は、新型コロナ禍でほとんど現地調査はできなかったが、2022年度は2カ月に1回程度の現地調査が可能になった。2022年春漁は例年と同じに不漁であったが、秋漁については、資源管理（禁漁区の設定や小エビの漁獲禁止など）の成果が出てきており、例年よりは少なかったが、駿河湾の奥に魚影が確認された。それを受けて仲買業者との漁獲量に関する話し合いも再開され、関係改善が進んだ。

現地フィールドワークが十分ではなかったため、桜えび漁業にも関係のある書籍を資料として整理（製本）した。

2年にわたり調査概要を踏まえて、場と創造の理論を英語で出版することを念頭に活動を行い、2023年3月までに英語版（『職場の現象学』の翻訳）の下訳の一部を完成させた。

（英文）

The purpose of this study was to test the hypothesis that changes in "place:ba" as a foundation supporting the network may occur prior to the construction of a new network that can be observed from the outside, by continuing the field research (participant observation and action research) on the sakura shrimp fishery.

In FY2022, field surveys could hardly be conducted due to the Covid19, but in FY2022, field surveys could be conducted about once every two months. the spring fishery in 2022 was as poor as in previous years, but for the fall fishery, resource management was showing some results. In response, discussions with brokers regarding fish catches were resumed, and relations improved.

Based on the research over a two-year period, I completed a part of translation for publishing the theory of ba and co-creation in English by March 2023.